

知っておきたい 診療技術

带状疱疹について

▼なぜ带状疱疹になるのか？

带状疱疹は、水痘・带状疱疹ウイルスによる感染症です。ただし、通常の感染症とは異なり、自分の体の中で発症します。過去に、水ぼうそうにかかった後、体内に残ったウイルスが再び活性化すると発症するのです。背景には免疫の低下が考えられており、高齢・がんなどの病気・栄養状態の悪化などが発症の引



带状疱疹の発疹

き金になります。

▼带状疱疹の症状

带状疱疹は、体の片側に痛みが出ることで始まります。その後、紅斑（赤い皮疹）を生じ、水疱（水ぶくれ）になり、膿疱（うみ）を経て痂皮（かさぶた）になって治ります。痛みを感じてから紅斑が生じるまで、およそ1～5日程度です。ただし、痛みを感じなかった場合には、带状疱疹と気がつくのが遅れがちになるため、重症化することが多くなります。

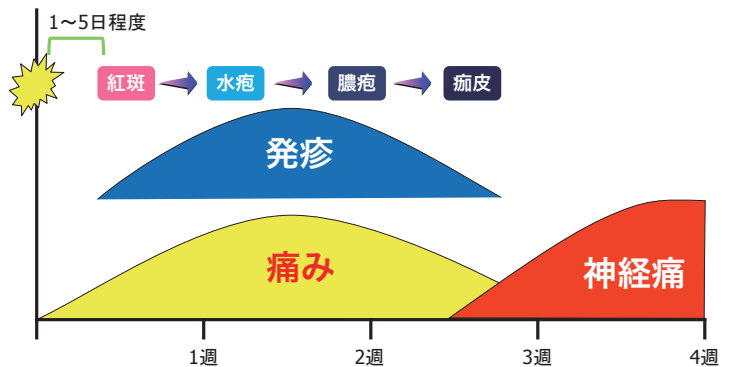
▼带状疱疹後神経痛とは？

带状疱疹にかかった後、しばしば神経痛を生じます。带状疱疹が治ってから1～2週間ほどで痛みが始まり、長いときは数年にわたって続きます。一般的に高齢者やがんなどの持病がある方に起こりやすく、症状が強い場合は生活がままならなくなるほどの影響を受ける方もいます。症状が強い場合は、強力な鎮痛剤やペインクリニックでの治療が必要になります。しかし、十分な効果が得られずに苦勞し

ている方も少なくありません。

▼带状疱疹の治療について

带状疱疹の治療では抗ウイルス剤を内服（あるいは点滴）します。ここで注意が必要なのは、带状疱疹に対する抗ウイルス剤は、ウイルスが増えるのを抑える効果を持つものしかない点です。抗菌剤（抗生物質）が細菌を減らす効果を持つとは異なり、抗ウイルス剤に増えたウイルスを減らす効果はありません。



带状疱疹の症状と経過

ん。従って、発症から時間が経つほど効果が乏しくなることとなります。带状疱疹の治療は、できるだけ早期に内服（あるいは点滴）を始める必要があります。「痛みのみ」あるいは「痛みと赤みのみ」の時期に始められるのが理想です。体の片側に限定した痛みがあるときは、带状疱疹の可能性も考える必要があります。

▼带状疱疹の予防について

最近話題の「带状疱疹不活化ワクチン」は、およそ10年にわたって80%ほどの発症予防効果があります。今まで使用されてきた生ワクチンが、7年程度で最大50%程度の発症予防効果だったことに比べると、格段に高い効果といえるでしょう。ワクチンは、2ヶ月ほどの間隔を開けて2回接種が必要です。費用はかかりますが、発症して、もし重症化した場合に、深刻な後遺症を残す可能性があることを考えると、接種したほうが良いと考えられます。

（皮膚科・アレルギー科部長

瀧澤好廣）